

2015 9/22

No.2003

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



相模原市南区麻溝台の井上果樹園でクリの収穫がピークを迎えている。園内には伊吹、利平など5品種計50本のクリの木が植えられ、直売のほか、休日にはクリ拾い体験もできる。同体験は有料で10月中旬まで。



視点・点描	3
ダブルケアの支援推進を	
国 際	4
不透明感高まるロシア経済 外貨準備高に疑問符	
経 済	6
ハードとソフトが融合する世界 新たな産業革命の本質とは	
国 際	8
“トランプ旋風”に揺れる共和党 米大統領選挙が本格始動	
くらし2015	10
年金保険料の後払い活用を	
広告珍談	12
おもしろい乗り物④ レールを走る馬車？	
NNAアジア経済レポート	13
神奈川景気データファイル	14
神奈川景気データファイル	15

事務局だより

◇横浜定例講演会

2015年10月8日(木)

13時30分～15時

ホテルニューグランド3階

「ベリー来航の間」

講師は双日総合研究所副所長、

チーフエコノミストの

吉崎 達彦氏

演題は「どうなる日本経済と世界」(仮題)

◇横浜定例講演会

2015年11月9日(月)

13時30分～15時

ロイヤルホールヨコハマ3階

「シンフォニー」

講師は新潟県立大学教授、

青山学院大学名誉教授の

袴田 茂樹氏

演題は「動乱の世界情勢と日露関係」(仮題)

視点 点描



ダブルケアの支援推進を

最近、新聞記事やテレビのニュースで見ることの多くなった用語がある。育児と介護が同時進行となる「ダブルケア」である。

晩婚化に伴い、出産年齢が高くなる一方、少子化できょうだいや親戚が減少。子育てと親の介護にいったんに関わる共働き世帯の肉体的、精神的負担の増大が新たな社会問題となっている。行政による実態把握はもちろん、対策も急

談窓口を12月、試験的に開設することを明らかにしている。

市の持つ情報を活用してもらい、信金から事業支援などを受けの実証実験を行う。ダブルケアに関わる事業者を増やすことによつて、育児と介護の両立に悩んでいる人たちの負担を減らすのが目的という。

支援対象は創業希望者や既存企業のほか、NPO法人、社会福祉法人など。事業者の必要な情報や、ダブルケアに直面する市民の現状などを把握した上で、12月から来年2月にかけて、信金に相談窓口を試験的に開設する。市などは2016年度の本格実施を目指している。

窓口では、高齢化率や子育て世帯数といった市が保有する情報をタブレット端末で事業者などに提供。信金は融資相談にも応じる。

信金には、これまで培ってきた経営相談や事業支援のノウハウがある。それをぜひ、この取り組みに生かしてほしい。

さらに、ダブルケアについて市内では、大学やNPO法人がプロジェクトチームをつくり、シンポジウム開催や当事者向けのハンドブック作製などにも乗り出している。行政だけの支援には限界がある。社会全体で負担軽減する環境をつくりたい。

精神的、肉体的疲労や経済的負担だけでなく、誰にも話せない孤立感、切迫した思いを訴える人も少なくない。ダブルケアに悩む人を支えるには家族の理解はもちろん、当事者が語り合える場を設け、孤立を防ぐことも必要だ。居場所づくりも進めたい。

(神奈川新聞社経済部長

石曾根 剛)

レールを走る馬車？

日本の乗り物はカゴや馬↓人力車や馬車↓鉄道(SLの)↓電気鉄道と発展するなかで、レールを走る馬車があった。《鉄道馬車》とも、《馬車鉄道》ともいう。

1872(明治5)年、横浜桜木町から東京新橋まで、日本最初の鉄道が開通した。終点の新橋から東京市内へ、路線馬車(2000号をどうぞ)が開通した。そのおなじルートにレールが敷かれ、馬車鉄道が走った。

《馬車鉄道》という国際的な都市交通は36年、ニューヨークで世界最初に走った。54年にパリ、61年にロンドン、65年ベルリンにも走った。東京は82(明治15)年である。

24人から28人乗りの木製客車等がある。つまり普通車とグリーン車を、2頭の馬がひく。馭者である

運転手と車掌が乗務した。複線でレールの幅は1372ミリ、JRの在来線は狭軌で1067ミリ。新幹線は標準軌道で1435ミリ。ということは馬車鉄道はJR在来線より幅広く、乗り心地はよかつたにちがいない。もちろん乗合馬車よりも、そして近い将来に走りだす市街電車とくらべても遜色はない。

馬車といえども鉄道だから、上と下等がある。つまり普通車とグリーン車。

開通初日は6両を4時間、運転し乗客は1511人、42円33銭8厘の売上げ。2日目は朝8時から夜8時まで運転。2888人が乗車、売上げは74円7銭と新聞が報道した。

開通から3年後、運営する東京乗合馬車会社が、図の新聞広告を掲出した。乗つてくれという広告ではなく、車内に掲出するポスターと配布するチラシを募集する内容である。

右端に「東京乗合馬車会社広告」とあるから、ややこしい。解読するところなる。

「欧米各国ノ鉄道馬車室内ニ於

テ」さまざまな広告が掲出されている。当社でも8月1日から開店や売出しの広告を掲出。多数の乗客に披露したところ、好評につき、お申込みあれ。室内のさまざまな広告とは、車内吊りポスターのこの。新聞広告はまだつづく。

ポスターのサイズは、27センチに18センチのタテ長。現在の中吊りポスターはヨコ長のB3版がほとんどだけだ。枚数は1車両1枚として、毎日60台が走っているの60枚、持ってきてくれ。掲出料は1日60銭、期間が長くなると安くしますよと。

3路線あり、色ガラスのランプで上野行きは赤。浅草行きは緑、新橋行きは白。2頭立ての馬車は、チリンチリンと鈴を鳴らして、のんびりと走ったという。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住) (図)ポスターとチラシを募集する広告・1889(明治22)年5月12日、新聞各紙掲載